

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

保護者及び地域住民等が一定の責任を持って学校運営へ参画し、学校教育活動の充実に向け、学校、保護者及び地域住民等が協働し、「学校づくりビジョン」の実現を図ります。

そのために、本校の運営協議会は、「生徒の実態を把握し協議する」「学校教育活動を地域に広める」「生徒と家庭との関わりを深める」「生徒と地域の関わりを深める」の4つの視点で活動を行います。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践例

①生徒の実態を把握し協議する

本校の運営協議会は今年度も4回の会議を計画いたしました。各委員には会議開催時での授業の参観及び体育祭や文化祭などの学校行事の参観を通して、生徒の実態を把握していただきました。

その後の協議で、生徒が落ち着いて授業を受けている様子やタブレットを使用した授業の様子、学校行事で一生懸命に取り組む姿に、とても良い評価をしていただきました。また、本校の生活アンケート等の結果や地域からの情報等から、学校の教育活動・経営等の状況について客観的な評価をいただくとともに、学校に対しさまざまな角度から助言をいただきました。



【授業参観】



【体育祭】



【文化祭】

②学校教育活動を地域に広める活動

運営協議会委員の方々には年間を通して、学校教育活動に参加したり、見学したりすることにより、生徒や教職員の様子を知り、教育活動の内容を理解していただいています。今年度は、地域の行事にボランティアスタッフとして参加する取組を企画し、運営協議会の方々からも地域に広めていただきました。また、定期の運営協議会とは別に、生徒議会を参観していただき、生徒会役員と懇談し、生徒の直接の意見を聞いていただく場を初めて設けました。

このように学校の情報を地域の各種団体や地域の方々に発信していただいています。併せて、地域における生徒の様子や地域の行事、取組に参加する生徒の様子を把握し、その情報を学校と共有していただいています。「学校の応援団」としての役割を果たしていただき「地域とともにある学校づくり」を進めていただきました。



【ボランティア・社明と連携】



【海蔵地区文化祭】



【大谷台地区住民の集い】

③生徒と家庭、地域との関わりを深めるための活動

近年は、生徒と家庭、地域との関わり方を考え直す過渡期になっています。

地域との関わり方の一環として、地域の行事にスタッフ側として参加するボランティア活動を企画しました。地域からは様々な行事のスタッフ募集の依頼があり、それに応えるように複数名の生徒が参加しています。地域との関わりとして良い取組を開始できました。今後は、参加生徒が固定化されつつあり、いかにその裾野を広げるかということが課題となってきています。

また、学校公開週間を学期に1回実施（年3回）し、保護者、地域の方が授業を参観できる期間を設けました。

来年度は、生徒と家庭、地域との関わりをより深める手立てを引き続き検討していきます。

④生徒と地域との関わりを深めるための活動

本校は各学年で、「総合的な学習の時間」を通して居住する地域を知るとともに、地域に愛着と誇りを持つことをねらいとした学習を実施しています。

1年生は居住する地域について「福祉」をテーマに学習を進めました。福祉に関する学習を行い、グループで調べ学習をし、地域のユニバーサルデザイン化されている場所や、バリアフリーになっていない場所などを調査してきました。発表会では各グループで調査してきた内容を発表し、自分たちの居住地の様子を意識していけるよう調査・発表を行いました。また、地区市民センター館長に参観・評価していただきました。

2年生は、6月に、各種団体の協力を得て、地区防災教室を実施しました。また、2月に、地元を中心とする事業所等の協力を得て、「職場体験学習」を3日間実施しました。職場での体験を通して働くことの意義や、楽しさ、大変さなど、それぞれが感じ取ってきました。その体験の様子を各々がレポートにまとめました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

C S運営委員による授業参観や学校評価アンケートでの意見において、生徒の挨拶の良さや落ち着いた雰囲気での授業の様子、タブレット学習の日常化などについての良い点を評価いただき一方で、施設の老朽化による不便さや教室の狭さと使い勝手の悪さなど、ハード面での教育環境整備が進まないことについての意見を引き続き多くいただきました。

生徒がより良い環境で教育が受けられるよう施設・設備と運用の両面から改善を図る必要があります。施設・設備面については、市教育委員会への要望を行い、修繕等を進めていきます。また、教職員のICT活用や授業の研修を通して、より効果的な運用を目指します。

不登校生徒への対応についても意見をいただきました。C S運営委員は、学校や教職員の状況、全国的にも増加にある状況を理解していただいているうえで、昨年度、校内で不登校生徒の対応ができる居場所が必要ではないかとの意見をいただいている中で、今年度に関級した校内登校サポート教室「ひだまり」の取組を紹介しました。多種多様の対応が必要な生徒への取組として良い評価と効果的な取組となるよう期待する意見をいただきました。この取組が山

手中学校の生徒を一人も取り残さない教育につなげていけるようしっかりと進めていく必要があると考えています。



【C S 運営委員による授業見学】



【C S 運営協議会会議の様子】

学校での生徒の様子が少しでも伝わるよう学期1回（年3回）の学校公開週間や体育祭、文化祭など、保護者が来校する機会を設けています。また、学校HPでも生徒の活動の様子を頻繁に掲載しており、保護者からも学校での様子がよくわかるようになったとの声をいただいています。

学校施設・設備が老朽化する中で、設備の更新や校舎をはじめとする施設の抜本的な整備についてのご意見は、生徒や教職員はもちろん、保護者やC S 運営協議会委員から、本年度だけではなく毎年多くの声をいただいています。市教育委員会とも引き続き連携・協力しながら、限られた予算の中ではありますが、安全面等を最優先としながら、可能な限り修繕を進めているところです。

また、学校の主たる活動である学習（教育）活動については、よりよい授業を実施できるよう教員は研修を積み、授業や評価の改善を進めています。観点の内容に「主体的に学習に取り組む態度」という項目があるように、目まぐるしく変化する社会に対応するため、中学校での学習内容も日々改められています。今後、暗記力や速く正確な計算力はAIに任せる時代となっていくともいわれています。そのような時代の変化に対応する力をつけられるよう、学習指導要領の趣旨に沿い、令和5年度から学校教育目標を「人間性豊かで、自分で考え、行動できる生徒を育成する」に変更し、授業を含むあらゆる教育活動の中で意識して取り組み、2年が経過します。論理的思考力の向上や主体的・対話的で深い学びとなり、学び続けられる生徒を育成すべく授業にあたる教職員の授業力向上を目指し、今後も研修を深めてまいります。また、保護者の皆様には学校と二人三脚で生徒たちの学力向上を図ることができるよう、家庭での学習習慣の定着を啓発・促進していきます。

また、学習面においても、自分の将来を見据えたキャリア教育につなげていけるよう授業のみならず、学校教育活動全般を通じて学びの大切さを伝え、生徒一人ひとりの充実につなげられる教育活動を進めてまいります。

生徒アンケートでは、学校生活が充実していると感じている生徒が多数いる一方で、自己肯定感が低く、自信につなげられない生徒もいます。一人ひとりに思いに寄り添いながら、ご家庭とともに、生徒の成長につなげられる教育活動を進めていきたいと考えています。

3 今後に向けて

(1) コミュニティスクール（運営協議会）の位置づけの明確化

運営協議会委員だけでなく、教職員・PTA役員・保護者・地域の方々にコミュニティスクールの位置づけや役割を理解していただき、連携をより強化し、活動の活性化を進めていきます。そして、学校と地域が協働し、生徒の健全な育成を行っていきます。「山手中学校区で育ってよかった」と誇りに思える生徒を育てていきます。

(2) 明らかになった課題の解決に向けて

- ① 学校教育活動においても、保護者や地域に対し、学校公開や体育祭、文化祭などの行事を参観していただく中で、今年度は、例年にない酷暑が想定されたため、急遽、体育祭の日程を変更しました。近年の全く読めない天候の状況があるため、コロナ禍以前の日程では学校行事を組めなくなってきました。市全体の行事日程を加味しながら、学校として最適な年間計画を立てていく必要があるとともに、状況に応じた臨機応変の対応も考えておく必要があります。

また、一人一台タブレット端末による授業や、リモートを活用した方法などが、学校教育活動に定着してきています。新たに得た教育活動の手法の定着とともに、その効果的な活用方法を検討し、教育の根幹にある学力の保障やコミュニケーション力の向上、自己肯定感を育むこと、自分で考え判断することなど、生徒の成長に必要なものを大切にしながら、教育活動を進めていきたいと考えます。

運営協議会委員による学校関係者評価では、4段階評価で3.5ポイント（以下、p t）以上の高い評価となった項目は9項目あります。特に高い評価となった項目は、「学校は、生徒が安心して学校生活を送れるよう安全に配慮している。」の3.8 p t（前年度比0.2 p t 増）で、生徒が日常から落ち着いて学校生活を送れていることが評価されたと考えます。次いで3.6 p tの項目は「生徒は、総合的な学習（地域学習や職場体験学習等）や行事等、意欲的に取り組んでいる。」（前年度比0.3 p t 増）、「学校は、命の大切さや社会のルール、人権を大切に子どもを育てようとしている。」（前年度比0.2 p t 増）、「学校の教育活動は、生徒の健康で健全な生活習慣を身につけるのに、役立っている。」（前年度比0.1 p t 増）、「学校は、生徒や保護者、地域の人たちの願いや思いを受け止める努力をしている。」（前年度比0.2 p t 増）の4項目となりました。

今後も引き続き、教師自らが挨拶と言葉がけを日々実践し、生徒の手本となるとともに、生徒に寄り添った教育を実践していきます。また、地域の方々と共に生徒を見守り、「笑顔」の溢れる学校、生徒のよりよい成長を育む学校を目指していきたいと考えます。

- ② 山手中学校の周辺には幹線道路が通り、生徒の登下校時の交通量も大変多い状況にあり、加えて学校周辺において登下校時に生徒の人流が集中する箇所もあります。今年度も自転車通学生徒と自動車との接触事故が起きました。また、これまでも小杉地区の交差点や山手通り歩道の通行の状況等について危険であると指摘されています。加えて、山手通りのみゆきヶ丘付近のカーブ地点（現在商業施設が建設予定の周辺）は朝の交通量が多く、下り坂でカーブであるため、見通しが悪い箇所、とても危険です。

上記のような対策として、一斉下校の際に学年別による時差下校の実施や、武道場北側の敷地の自転車用通路を利用し、下校時に自転車通学者と徒歩通学者を分けて下校させることで、懸念されていた交差点での信号待ちによる生徒の密集がかなり解消されています。

今後も引き続き、四日市北警察署や阿倉川交番など関係機関とも連携をとりながら、学級や学年集会で交通安全指導をするとともに、学校だよりや学校HPなどでも情報発信をしながら、ハード面・ソフト面ともに生徒の安全対策を進めていきます。

- ③ 今年度、山手中学校生の携帯電話やスマートフォンの所持率は、1年生88%、2年生95%、3年生94%で、全学年とも90%前後の所持率となっています。また、SNSをめぐるトラブルは毎年起きており、ネットモラルに関する課題事項となっています。今年度は、SNS講座を各学年及び新入生保護者説明会で開催し、生徒や保護者に啓発・指導を行いました。スマートフォンやSNSのモラルについては、家庭での指導が大きく占めているところがあるため、引き続き、保護者にも啓発していけるよう、CS運営協議会委員や関係団体の協力も得、進めていきたい。また、学校だよりや学校HP等も活用しながら、情報端

末機の正しい利用の仕方について啓発活動が続けていきます。

- ④ 例年のことながら、運営協議会・保護者・生徒・教職員すべてにおいて、学校評価アンケートの「学校施設・設備の環境整備」については、前年度よりは微増の評価となりました(運営協議会 2.6 p t、保護者 2.8 p t、生徒 3.2 p t、教職員 2.6 p t)。これは、目に見える箇所の修繕を進めていった結果だと分析しています。今年度も、これらの修繕が進められたのは、市教育委員会や運営協議会委員の働きかけによるものが多いと思います。しかし、長年改修要望をお願いしてきた箇所について改修工事を少しずつ進めていただいている一方、昭和40年代に建てられた校舎は、使いづらく、不便な面が多々あることには変わりありません。今後も市教育委員会に要望するとともに、地域の方々の協力を得ながら危険箇所を優先的に改修するなど、少しずつ改善していきたいと考えています。

令和6年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立 山手中 学校

委員長 長谷川 仁志

校 長 山下 英樹

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回C S運営協議会	・委員長選出 ・学校づくりビジョンの確認 ・令和6年度年間活動計画
6		
7		
8		
9	第2回C S運営協議会	・学校からの報告（学校行事や部活動などの学校の様子）
10		
11	第3回C S運営協議会	・学校からの報告（学校行事や部活動などの学校の様子） ・学校評価アンケート
12		
1	生徒議会の参観及び生徒会役員との懇談（自由出席）	・生徒議会を参観したのち、生徒会役員との懇談会
2	第4回C S運営協議会	・令和6年度の活動と反省及び評価 ・次年度の学校づくりビジョン ・次年度の主な学校行事の確認
3		